

保育おおか

平成16年8月1日 第348号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

変革の時に「力」あわせて

近畿ブロック保育研究集会

平成16年近畿ブロック保育研究集会が、7月12日(月)から13日(火)の2日間の日程で、JR京都駅近くにある京都テルサ・ぱるる・プラザ京都・ホテルグランヴィア京都の4会場で開催された。研究集会には、近畿一円から840人の参加を得て、「ともに育む子どもの笑顔―変革の時代の保育を考える―」をテーマに日程が進められた。

オープニング

午後12時30分から、オープニングとして、宇治市三室戸保育園の杉木一久総園長の作詞・作曲で、「南風飛行」「夢童子」の2曲を、ご本人のギター・歌と京都府保育所職員のコーラスによって披露され、そのすばらしい演奏と歌声に参加者は聴き入っていた。

開会式



次に、平成16年度近畿ブロック保育研究集会実行委員の鈴木逸子さんの開会宣言で幕を上げ、主催者を代表して、近畿ブロック保育協議会の森田昌伸会長が挨拶され、開催地歓迎の意を込めて、平成16年近畿ブロック保育研究集会実行委員会の伊藤義明会長が挨拶をされた。

引き続き、来賓祝辞では、京都府の佐村知子副知事、京都市子育て支援政策監の浅野明美さん、全国保育協議会の佐藤信治会長が

ら心強い祝辞をいただき、結びに、全国保育士会の武内茂子会長から、「変革の時でも保育士がしっかりと職務を果たせば道は開かれる」と力強い祝辞をいただき開会式を終了した。

厚生労働省講演

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の角田雄三保育指導専門官が保育の動向と課題について講演された。少子化の問題について、少子化の状況になった経緯から分かりやすい説明があり、近年子育てがしにくい状況であり、それに対応するための政府の考え方や新たなニーズに対応した子育てサービスの提供について述べられ、最後に「総合施設」について説明があり講演を終えられた。

記念講演

2日目は、元衆議院議員で、現在は京都太陽の園理



講師の野中広務氏

事長である野中広務さんによる記念講演が行われた。「戦争の語り部」として―未来を担う子どもたちを再び戦火に曝さないために―というテーマで、政治家としての経歴や生い立ち、さらには、戦争中の軍人としての事など、経験豊富な話を聞くことができた。戦争中に言語統制などにより、国民はコントロールされていたが、現状の状況が、それとよく似ている(イラク戦争など、強力なメディアにより伝えられているものは、真実かどうか不明である)など、マクロな視点で、

日本の将来を危惧されていた。また、少子化の本当の対策も考えずに、財政が苦しいからといってお金の面だけを改革するのはいいかなものか、と本質を突いた視点で話され、最後に参加者に対して、「未来を担う子どもたちのため、頑張ってください」と激励の言葉を述べられ、講演を終えた。(分科会は2面)



枝豆・スイカ・なす・トマトなどクラスごと色んな夏野菜の栽培と収穫に嬉し

そうな子どもたち。あやかたわけでもないが私も流行のマイナスイオンが出るというサンセベリアをかわいがっている。水を好まぬ性質はわすれんぼの私にはちょうどよく、土を押しあげて小さな芽が出てくると毎日の成長を観察するのが面白い。ある日5センチほどの小さなきのこができていた。いつの間にか食べられるのか、はたまた毒きのこか? 気味悪くてそっとちぎって捨てた。

敗戦後もシベリアに抑留されて過酷な労働と1日1食の生活にも生き延びた父から、食べられる物は何でも食べたその頃、毒きのこにあたって死んだ戦友の話をよく聞いた。きのこが生えているのを見るとすぐ食べられるかどうか考えるのはそのせいだろうか? 夏はいつも平和を祈りたい。

分科会報告

大阪は、第3分科会と第5分科会を発題担当し、それぞれ実践例に基づき研究報告がなされた。主な内容は次のとおり。

第3分科会

これからの 保育所運営を 考える



中島 一さん
天野山保育園

地域になくなくてはならない施設になっていきたい。

事業活動の一部を外部に委ねることで、効果的に主たる事業の強化が図られるだけでなく、結果的にコストを下げ、しかも質の高いサービスを確保することが可能になる。保育内容の見直しに通じる自園のコアコンピュタンスを確立することとで基盤強化を図っていきたいと述べられた。

園での業務を外部委託にする見極めとして、どの程度のプラス要因があるか情報を集める必要がある。当園では調理業務を委託すること、調理員の人事管理からの解放、衛生管理の格段の進歩、計画的な研修の実施、給食会議実施による保育現場との意見交換の向上など大幅な改善がみられた。

また、生じた時間で、園の基本理念や、独自の指針書および職員の基本マニュアルなどを策定し、保育内容の見直しを行うことができた。これからは、10年をサイクルとしたビジョン、経営基本戦略の策定を行い、

ラインにも示されているように理念、基本方針に基づき、周りの人に周知されていることが大切であると強調された。

参加された先生たちの真剣な眼差しが印象に残る分科会であった。

(北阪保育園 N・I)

第5分科会

3歳以上児の 現状と保育・ 子育て支援の あり方



今中江美さん
白鳩保育園

東大阪市私立保育会の各園に異年齢についてのアンケート調査を行った。

アンケートでは、87%の園で異年齢児保育をしており、いろいろな課題はあるが、子どもの情操や社会性を育てる面や、保育士にとっても子どもの姿を多面的に捉えられるといったプラス面の回答が多く得られた。

白鳩保育園での実践報告では、昭和59年に障害児の受け入れ枠を増やす工夫を開始し、3歳児以上を日常的に縦割りにした。さらに、小グループ、リーダー制を

取り、子どもたち自身で生活をする環境作りに取り組んだ。しかし、時代の変化とともに、子どもの意識も低下し、保育形態を見直すこととなった。

その後も試行錯誤を繰り返し、子どもは子どもの社会の中で「生きる力」が育つことが身をもって分かり、これからは縦割り保育を通じて、たくさんさんの経験ができる環境づくりをしていきたいと述べられた。

質疑応答では、東大阪市では日常的に縦割り保育をされている園が多いのか、また、保護者の理解は、など質問があり、ほとんどの園で部分的に縦割り保育をしていること、また、保護者に対しては、縦割り保育の良いところや年齢別保育もきっちりおこなっていることを伝えて安心してもらうている、と説明された。

最後に、助言者である京都保育福祉専門学院の柴田直峰専任教員から講評があった。年齢別保育でも、一人ひとり発達年齢が違う子どもがいるので、異年齢保育でも特別に考え過ぎなくて良い。一番低い年齢の取り残しがないか、また、年長児は年長らしくできるかと

調 研 今年度予定 育児相談・シッス小委員会

昭和59年に保育部会による「電話育児相談」が始まり、平成3・4・7年度と展開された育児相談員研修も、平成10年度から現在の形に内容の充実が図られ、以来、昨年度までに558人の方が、大阪府知事の認定証を取得されています。

府下414園のうち、およそ70%の保育園に認定証を持った保育士がおられます。

電話から始まり20年 育児相談の充実をめざす

育児相談研修を受けただことで、自分自身や対外的な働きかけについて起こった変化や、研修についてご意見をいただき、時代にあつた子育て支援のための講座となるよう充実を図りたいと考えております。

もう一つ、SIDS、最近頻繁に聞く虐待問題について2つのポイントに注意する必要があるが、いろいろな年齢の子どもが交われば双方の刺激が必ずあり、発達を促進する力になると

いですが、園の危機管理を含めて、「子どもの安全を考える」というテーマで研修会を開催しています。保育園としての体制維持強化、事故が起きた後の対処も含め、新人への研修として続けていきたいと考えております。

また、育児相談員研修を修了された方々が、民間保育園の育児相談員としてどのような活躍をされているかを知りたいと今ところございませぬ。そこで実際の育児相談件数内容について統計を取り、比べることによって見えてくるものがあるのではないかと考え、アンケートを取ることを考えております。その節は、各施設のご協力をよろしくお願いいたします。

強調された。総勢159人の参加者で、今回のテーマに対する関心の高さを強く感じる分科会であった。(おりづる保育園 Y・H)

老朽改築を終えて

泉佐野市
泉佐野ルーテル保育園みんなで
工夫
しながら

この春から新しい園舎での生活が始まり、子どもたち私たちも新しい生活環境に心より感謝しています。

工事が始まると仮設園舎での生活が始まりました。冬を越す時期だったので、雨風が入ってこないように二階の吹き抜け部分に透明

の板を取り付け、光が入るようにしました。二階へと続く階段にも手すりの部分に化粧板を取り付け、危険のないようにしました。また毎日花を飾り園庭にはうさぎや亀を飼い、子どもたちと日々の生活を育みました。



新園舎ができるまでの間、常に前の道路脇には工事車両が停まっている状態だったので、送迎時の車両の混雑や子どもたちの安全確保のため、警備員を含め私たち保育士も気を付けなければならぬことが多々ありました。子どもたちの遊ぶスペースが限られてきたので、頻繁に公園に出向き、充分に体を動かして遊べる

ように努めました。

色々な行事をこなしながらできあがってくる新園舎、保護者の方々や子どもたちと共に期待と喜びを持って精一杯取り組んできました。そしてこの春、園舎が完成し、皆で一年を振り返りながら卒園式を迎えました。二回の引越しや生活環境の変化に配慮しながら、皆で工夫しながらの保育生活でした。

■わたしは昭和52年以来27年間も園長を続けています。その間、保育園も保育を取り巻く環境も大きく変わりました。

しかし、制度・環境の変化よりも、わたしはお母さんたちの、有り難くない方向への変化を、もっと心配しなればならないのではないかと思っています。

■まず第一に、お母さんたちの外見が変わりました。一言で言えば、カッコ良い美形のお母さんが増えました（ただし、わたしの基準では、美形と美人はイコールではありません。念のため）。

医学的に見て、あれではきつと難産だったのではな

特にヒップアップしてお尻を小さく見せるパンツなど身につけられると、とても子どもを生んだ女性とは思えません。

そして、化粧も入念になりました。子どもを保育園に連れてくるまでの忙しい時間帯に、よくあれだけス

たように思います。

昔のお母さんは、まずお母さんで、その後に女性を志していた感じが、今のお母さんは、まず女性をして、その後で母さんをして、という印象を受けるのですが、

■まあ、それはそれでいい

落語医者の保育うだうだ話

お母さん、しやがめ

キなく頑張れますね、と言いたくなるような人が多くなりました。

それに比べると、昔のお母さんは、腰もお尻も大きく、いかにも子どもを生みましたという自信と貫禄と、わたしの言う「母親体力」を誇り、化粧つきの少ないのも当然という雰囲気があっ

ことなのかも知れませんが、子育ての問題として、あるいは子どもたちの母親として、わたしが大いに心配していることは、最近のスリムなお母さんは、子どもたちの前でしゃがまなくなつたことです。

このことは、子どもと並行な目線で話しかけることが減り、同時に子どもをだっこすることが減り、子どもとスキンシップをすること減っているというのを意味しているのです。

これは、子育ての基本中の基本であるものが軽視されているようで、わたしとしては由々しき問題だと考えているのです。

■そして、多くのお母さんは立ったままで、子どもたちの頭の上から「カバンを持つて来なさい」という指示、「早くしなさい」という命令、「大きな声はださないの」という禁止、そして最後は「お母さん知りませんからね」という喝の「四語かあさん」をやっておられるのですが、これでは親子というより、ボスと子分、悪く言えば、ご主人様と奴隷の関係に近いのではないのでしょうか。

なんとと言っても、お母さんと子どもなんですから、もっと、子どもの前でしゃがんで、子どもの目線で話したり、もっとスキンシップがあってもよいのではな

保育部会常任委員会報告

平成16年7月6日 午後2時～

- 「大阪eケアねっと」について
大阪府健康福祉部地域福祉課から説明
- 大阪府民間社会福祉施設従事職員給与改善費補助金について
- 第三者評価事業について
- 老人施設部会社会貢献事業について

ブロックだより

専門家として 信頼されるために

—泉州ブロック保育士研修会—



講師の山縣先生

6月19日(土) 泉州ブロックの保育士研修が、大阪市立大学の山縣文治教授を講師に迎え、岸和田市福祉総合センターで行われました。

「保育の専門家として、保護者・地域から信頼されるためには」というテーマで、最近の5つの重要なできごと(①子育て支援の法定化②次世代育成支援行動計画の策定③苦情解決制度④第三者評価制度⑤総合施設)について説明があり、その後、利用者(保護者)側の立場になり、利用者から信頼を得るためのポイント、地域住民から信頼を得るためのポイントを6、7人のグループになり、それぞれ話し合いました。

今回の研修で、今までは保育士側から一方的に「どのように信頼を得られるか?」と考えることが多かったの

保育園をたずねて

318

交野市

第2きんもくせい保育園

交野市の北部、住宅地とほのほとした田園風景の間にある可愛らしいサーモン色の園舎の第2きんもくせい保育園を訪ねました。

園舎の屋上にはロケットのような遊具があり、また、1階には大きなお顔のアンパンマンの遊具があり、子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿が目に浮かぶようでした(お昼寝からおやつの間伺いましたので)。また、屋上にはプールがあり、水



遊びには最適な場所でした。園舎の中は各部屋とも、とても広々としており、園長先生をはじめ、若い先生

が多くとても新鮮に感じました。夏の行事も園児の家族をよんでの夏祭り、プラネタリウム、デイキャンプなどとても盛りだくさん。

園舎の横の小さな畑には、プチトマトやキュウリなどが植えてあり、食物の育つ様子が園児たちに分かり、給食の時にはとてもおいしくいただくそうです。

家庭的な保育で、園児がみんな兄弟で一つの家族のような温かい保育園でした。



世に「ゆとり」を

—堺ブロック保育士研修会—



で、常に両方の立場にたって考えることは、とても大切なことだと感じ、保育士が専門家としてプロ意識を持ち、日々勉強に取り組みねばならないと痛感しました。

(すいせん保育園 Y・H)

堺ブロックでは、6月29

日に神戸大学発達科学部の木下孝司助教授を講師に迎え、「0、1歳児の発達とその関わり方」についての保育士研修が行われた。

発達を学ぶことは、理論を機械的に当てはめることではない。子ども自身の「したいなあ」とか「こんなこと出来るようになるのたいなあ」といった願いを知り、それが思い通りに実現できずにいる子どもたちの矛盾や葛藤を前向きに乗り



講師の木下先生

り越えられるように、関係者が知恵を出し合うことに始まると話された。

ビデオや実例などを交えながら発達を捉える視点の重要性と各発達段階における特徴について、わかりやすく順を追って解説されるところに、保護者と一緒の子育てをする場としての保育園の役割と「心のゆとり」

今年の夏は猛暑を越える酷暑、連日の真夏日で人も動物も草花もぐった状態。そんな気候のせいというわけではないと思うが、あの阪神タイガースのチョットとスのチョットと気になる今の成績。チームの合併だ、1リーグ制だとグラウンド外も騒々しいばかり。東の方のワンマンなおじさんも言いたい放題。それに比べ今年の星野タイガー

スのリーグ優勝はスカッとさせてくれた。溜飲が下がる思いがした。その星野前監督の実のお姉様、米谷美和子さんが、私たち保育界で活躍されている。ブロックや保育園で子育て講演をされ、喜ばれている。優しく丁寧な語り口は、聞いている人をひきつける。講演の中で、少しではあるが星野前監督の学生時代の話は感動ものだ。



発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部 TEL 6762-9001
発行人 土勝
編集人 岡崎
高水

の必要性についても話され、保育園は、一緒に子育てをする場、お互いがリラックスして保護者とともに育ちあえる場であるべきである。そして未来を見通す中で、大人も子どもも変化していく自分の自己肯定感を大切に、発達の舞台をみんなで作りたいものです。と講演の最後を締められた。

(保育園平和の園 N・S)